

令和元年6月18日

こども未来部保育課

江東区塩浜保育園外3園の指定管理者の選定手続きについて

「江東区公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例」及び「江東区保育所条例」に基づき、江東区塩浜保育園、江東区千田保育園、江東区亀戸第四保育園については、平成22年4月1日から、江東区南砂さくら保育園については、平成22年10月1日から、指定管理者制度による管理運営を行っているところであるが、令和元年度末をもって指定期間の満了を迎えるため、次のように再選定の手続きを実施する。

1 施設名及び現在の指定管理者**(1) 江東区塩浜保育園****①施設名**

江東区塩浜保育園

(所在地 江東区塩浜一丁目3番10号)

②現在の指定管理者

社会福祉法人 流山中央福祉会

(所在地 千葉県流山市南流山二丁目29番4号)

指定期間 平成27年4月1日～令和2年3月31日(5年間)

(2) 江東区千田保育園**①施設名**

江東区千田保育園

(所在地 江東区千田22番8号)

②現在の指定管理者

社会福祉法人 みわの会

(所在地 東京都江東区豊洲二丁目5番3-101号)

指定期間 平成27年4月1日～令和2年3月31日(5年間)

(3) 江東区亀戸第四保育園

①施設名

江東区亀戸第四保育園

(所在地 江東区亀戸四丁目21番13号)

②現在の指定管理者

社会福祉法人 三樹会

(所在地 埼玉県さいたま市南区鹿手袋四丁目17番22号)

指定期間 平成27年4月1日～令和2年3月31日(5年間)

(4) 江東区南砂さくら保育園

①施設名

江東区南砂さくら保育園

(所在地 江東区南砂六丁目8番3号)

②現在の指定管理者

社会福祉法人 東京児童協会

(所在地 東京都江戸川区船堀二丁目23番10号)

指定期間 平成27年4月1日～令和2年3月31日(5年間)

2 選定方法

非公募による

(非公募の理由)

- ① 利用者と施設事業者との高度な信頼関係が求められる保育施設において引き続き管理を行うことで、安定したサービスの確保と事業効果が期待できる。
- ② 適正に保育施設の運営を行っている。
- ③ 年度評価(平成27年度～29年度)も優れており、指定管理者としての能力及び実績が十分にある。
- ④ 利用者アンケートでも多くの保護者から「大変満足」及び「満足」との高い評価を受けている。

3 今後の予定

令和元年8月 江東区公の施設に係る指定管理者選定評価委員会で指定候補者を選定

令和元年9月 令和元年第3回江東区議会定例会に議案を付議

令和2年3月 協定書の締結

東京都福祉サービス第三者評価

評価結果概要版

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

平成29年度

認可保育所

法人名称	社会福祉法人流山中央福祉会
事業所名称	江東区塩浜保育園
事業所所在地	東京都江東区塩浜1丁目3番10号
事業所電話番号	03-3647-0480

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)	<p>保育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもを育成する ・健全な心身を図ることを基本に、遊びを通して心身の発達を援助する ・愛情豊かに一人ひとりと触れ合い、様々な多くの体験を行う。 <p>「豊かな情操」「丈夫な体」「広い社会性」「確かな基礎能力」を4つの柱にし、</p> <p>くつろいだ環境の中で情緒の安定をはかり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心も体も健康な子ども ・意欲的で自主性のある子ども ・思いやりのある子ども ・感性・創造性豊かな子ども <p>を家庭と地域との連携のもと実体験や人との関わりの中で育むことを保育目標にしている。</p>

全体の評価講評

特に良いと思う点

- ・子どもたちが主体となり、選択しながら様々な経験や体験ができるように工夫している職員一人ひとりが各年齢の子どもたちの気持ちを受け止め、寄り添いながら優しい保育を行うことを大切にしており、そのために必要な取り組みを職員全体で話し合いながら実践につなげている。保育室も場面に応じた室内の使い分けや目的を持ったコーナー設定、集団での遊びが展開できるスペース作り、玩具や教材の充実等、子ども主体の活動を意識した作り込みが行われている。また、年齢に応じて行事や園外活動、表現活動、食育活動等も幅広く行い、園生活の中で様々な体験や経験ができるようにしている。
- ・年齢に応じて多様な活動を取り入れており、その意図や成果を保護者に伝えることで理解と支持を得ている子ども主体の生活環境が作られることで、穏やかな生活場面が提供されているが、年間を通じた活動の中では集団による多様な活動も取り入れている。特に外部指導を受ける体操や英語、太極拳等の活動は法人園の強みでもあり、職員も共に関わることで、子どものペースの合わせた内容で進められるようにしている。また、広い園庭を活用した体を使った遊びや、行事の充実にも取り組んでいる。それぞれ取り組みの様子や意図、成果等については園から詳細な情報を提供しており、保護者の理解と支持も得られている。
- ・園全体の仕組みを整え、職員間の共通理解を確実にすることで、連携した取り組みができるようになっている組織の構成や職務分掌、会議の仕組み等、様々な面について仕組みの整備と職員への周知徹底が図られている。これにより各職員は園の方針を理解した上で、自身の職位や職域に応じて主体的に取り組むことができるようになっている。また、業務に関する各種のテキストやマニュアルが整備され、業務手順も明確に示されている。各種の会議も案件に応じて効率良く開催されており、必要に応じて職員間の議論を深められるような工夫もある。仕組みを整えることで職員の共通理解を図り、常に連携協力のもとで業務が進められるようになっている。

さらなる改善が望まれる点

- ・ 場面や時間帯に応じた対応については、園として検証する必要性も感じられる職員の対応については全体的に高い支持を得ており、保護者の自由記述でも気に入っている点として子どもへの関わりや接遇等について多くの記述が見られる。一方で、降園時を中心に時間帯や職員による違い等も一部に示されている。状況を検証すると共に、園として求める水準を再確認することも期待される。
- ・ 地域との交流については継続的な課題として取り組むこととしている地域子育て支援事業として一時保育室の確保や園庭開放、育児相談等を広く展開しており、また、近隣地域の関係者との交流も進めている。しかしながら湾岸の再開発地区という特性もあり、園児が関わるレベルでの地域交流は難しい面も見られる。町会との関係等も作られていることから、今後も引き続き取り組むことで活動の幅が広がることが期待される。
- ・ 園内研修の充実を図ることを課題としている研修制度の充実が図られており、法人研修や外部研修、園内研修等が年間を通して実施されている。また、研修を通して学ぶべき課題も、職員が個々に設定して取り組む仕組みも作られている。園としては、指針改定を踏まえて今まで以上に園内研修の充実を図る必要性を感じており、テーマを持って学ぶ仕組みを作ることとしている。

事業者が特に力を入れている取り組み

★ 多面的な研修に参加して、保育の質の向上を図っている

法人全体での研修では、新人研修や2年目研修、体育指導、玩具研修等があり、職員が参加して共通の学びにつなげている。特色としている体育指導の研修では、法人内の職員で学び合って各園に持ち帰り、研修報告と共に職員間で共通理解につなげている。また、子どもたちが大好きな木製玩具研修では、各園職員が子どもの思いを感じながら作り上げる等、興味深い内容を学んでいる。その他、様々な外部研修に参加する他、区立小学校との「連携教育の日」研修では、小学校との接続に向けて取り組んでいる。

★ 健康な体作りの一環として、運動タイム・体育指導・太極拳に取り組んでいる

幼児クラスを中心に「体の部位を使い、様々な運動を通して体力増進を図る」ことを目標に「幼児運動タイム年間カリキュラム」を作成し、園庭・ホール・屋上等で活動している。外部講師による3～5歳児の体育指導では、運動能力の育成と友達と力を合わせる協調性の大切さを、年間を通して学び合っている。太極拳指導では、俊敏な動きやバランス感覚を養い体幹も鍛えていく等、講師の指導のもとで4・5歳児が張り切って参加している。様々な活動を行う中、子どもたちが主体的に参加している。

★ 野菜の栽培体験を通して食べ物の命を感じ、感謝していただくことを体験している

園舎屋上や園庭にある畑には、温かい日差しのもとでふくよかな土が盛られている。春には子どもたちが夏野菜の種まきや苗植えを行い当番活動で水やりを行う等、懸命に育てている。子どもたちは育っていく野菜に目を留め、子どもたち同士で成育を喜び見守っている。収穫期には、野菜の命を感謝していただき満足している。野菜の栽培や給食への関心をもとに、0・1歳児が丸ごとのキャベツに触れる他、3歳児はおにぎりを作って母の気持ちを感じている。子どもたちは様々なクッキングや行事食に触れる等、豊かな食体験を重ねている。

利用者調査結果

調査概要

- ・ **調査対象:** 在園児125名(105世帯)の保護者(お子さんが複数通園されている場合は年齢の低いほうのお子さんについて回答を得る)。
- ・ **調査方法:** アンケート方式
アンケート方式を採用。標準調査項目に独自項目を追加したアンケートと案内文、共通評価項目のねらいを返信用封筒に同封し、園職員を通じて保護者へ配布。ポストへの直接投函と、園内に設置した箱で並行して回収を行い、弊社事業所にて集計を行った。
- ・ 利用者総数: 125人
- ・ 利用者家族総数(世帯): 105世帯
- ・ 共通評価項目による調査対象者数: 105人
- ・ 共通評価項目による調査の有効回答者数: 63人

評価結果概要

- 利用者家族総数に対する回答者割合(%)：60.0%
- 調査項目：[共通評価項目](#)

評価結果概要版

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

平成30年度

認可保育所

法人名称	社会福祉法人みわの会
事業所名称	江東区千田保育園
事業所所在地	東京都江東区千田22番8号
事業所電話番号	03-5683-1266

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホスピタリティマインド(優しい心)をもって受け止め、子どもを愛しません。 2. 子どもの個性や独自性を大切にします。 3. 保護者・地域社会とともに歩みます。 4. 家庭的な保育園をめざします。

全体の評価講評

特に良いと思う点

- ・ 外部講師のアドバイスを受け、子どもが主体的に遊ぶことができる環境構成を見直し改善を図っている園では子どもの個性や独自性を尊重し、自主性を大切にする保育姿勢を実践してきた。子どもが自ら成長する力を引き出すような遊びとは何か、職員が主体性の意味を正しく理解しているかどうか等の問題意識の上に立ち、外部講師に遊びの環境や保育実践を見てもらい指導を受けている。クラス毎にじっくりと遊び込めるようなコーナーを作り、集団でも一人でも遊べるような多様性を生み出してきた。その結果、子どもは目線の先にある遊具を自由に手に取り、子ども同士の自然な関わり合いの中で、落ち着いて遊びに集中する姿が見られている。
- ・ 夏祭りや日本の伝統行事を取り入れており、子どもたちが興味を持って取り組める行事を充実させている年間を通して、子どもたちが主体的に取り組めるような行事を充実させている。夏祭りでは年長児が模擬店を手伝い、敬老会ではおもてなし役となって祖父母との交流を楽しめるよう工夫している。親子運動会、新春コンサート等の他、獅子舞、和太鼓等の伝統文化に触れる機会も作っている。年度末に行っている発表会では、子どもたちが演目を考え、劇遊びを主体的に楽しんでいる。行事を通して保護者同士の交流も見られ、保護者も子どもと共に打ち解け合い、関係性が深まっていく様子が見られている。併せて、地域との接点としても行事を活用している。
- ・ 職員の年齢差を解消できるように、中堅リーダー層の育成を通してチームワークの向上に取り組んでいる法人の新規施設開設に伴う大幅な人事異動があったため、中堅の年齢層が少なくなっている。主任・副主任や各クラスリーダーの年齢もベテランと若手の二層になる傾向がある。若手リーダーにもクラス運営を任せられるよう、中堅リーダー層の育成に力を入れてきており、特にコミュニケーション能力を高め、様々な意見を引き出すために園内研修を充実させてきた。併せて、新人職員の育成を中堅職員に任せ、新人も指南役の職員も一年間で大きく成長している。人事異動をきっかけとして職員一人ひとりの参加意識が高まり、チームワークの向上が見られている。

さらなる改善が望まれる点

- ・ 保育環境の整備や子どもの主体性を見守る保育姿勢等、取り組みの良さを保護者にも的確に知らせる工夫が課題となっている今回の保護者アンケートでは、園の雰囲気の良いやのびのびとした育成姿勢、子どもの気持ちを大切にすること等、職員の取り組みを評価する声が多かった。また、英語や美術活動等の活動には満足の声が多数示されている。一方で、園が大切にしてきた一人ひとりの個性の尊重や、発達の過程の各一コマは十分に伝わっていないようである。「普段過ごしている様子を見たいので保育参観ができれば」と希望の声も出されている。遊びの様子を通して子どもの成長を丁寧に伝え、園が大事にしてきた子どもとの関わりを保護者に伝えるための工夫が求められている。
- ・ 体力の向上や季節感を楽しむため、戸外活動を増やすことが期待される戸外活動は、長時間を歩

く体力や自然に触れ合い季節感を感じる感性を育み、園庭や屋上での遊びでは得られない経験である。園では、週2～3回は戸外活動の機会を設けており、公園での遊びや散歩を楽しんでいる。年長児は40～50分掛かる博物館等へも出掛け、就学に向けての体験につなげている。一方、保護者の中からは「外遊びを増やしてほしい・遠足を増やしてほしい」という声もある。近隣の児童館等の区の施設も活用しながら、戸外活動の機会を増やすことが期待される。

- ・ 保育所保育指針の改訂や取り組んできた保育実践の成果を反映させ、マニュアルや書類等の改訂・改善等が課題となっている園では、保育環境の整備や子どもと保育者の丁寧な関わり等、保育所保育指針の改訂にもマッチする取り組みを実践してきている。また、業務マニュアルも食育、アレルギー、不審者対策、感染症、災害対策等、多岐に渡る内容で充実している。一方、職員の負担軽減につながるような、書式や様式の簡略化も課題となっている。今後は取り組んできた保育内容の良いところを長く引き継ぐ意味からも、保育業務マニュアルの改訂や書式の簡略化に取り組むことが期待される。

事業者が特に力を入れている取り組み

★ 保育環境の充実に向け、乳児期のコーナー遊びを構築している

法人理念には、「誰もがありがままでいられる家庭的で温かい場所でありたい」という思いが定められている。乳児期の子どもたちが自分の好きな遊具を見つけて繰り返し遊ぶ様子や、それを見守る優しい眼差しを意図とした家庭的な保育を目指し、コーナー保育を構築している。研修では専門講師に保育現場を見てもらっており、乳児期に出会わせたい遊具や絵本、場所等を成長に合わせて用意している。研修を通して、常に子ども目線で考えていこうとする職員のチームワークも構築されている。

★ 外部の専任講師による美術指導・英語指導を子ども主体で行っている

外部の専任講師による美術指導では、子どもが主体的に取り組めるよう子どもたちからの発想やイメージ、アイデア等を大切にしながら行っている。1月には「布を縫う」ことを子どもたちに提供し、保育士が様々な柄の布や素材を用意して取り掛かっており、どの作品も個性的で子どもの思いやイメージを押し測りながら見ていく楽しさが感じられる。針を使用する部分では、保育士の見守りを要するが、材料の使い方等も子どもたち自身で行っている。先生との関係では、活動の中での触れ合いを大切に取組んでおり、英語等の活動も同じ方向性で行っている。

★ 地域交流としてたくさんの経験を軸に、子どもたちの生活の幅を広げている

子どもたちは様々な方との出会いや触れ合い、学び合いを通して生活に必要な経験を広げている。高齢者施設訪問で優しさをもたらす経験や、幼稚園と交流しながら小学校を訪問する経験、お話の会の方からの素話や絵本の読み聞かせ等の心地良い時間の共有、ボランティアや職場体験の学生さんとの触れ合いや交流、5歳児が児童館指導員からサッカー指導を受ける体験等、地域との関わり合いの中で挨拶や感謝の言葉、人と話す所作を学び合う等、生活の幅を広げていく機会につなげている。

利用者調査結果

調査概要

- ・ **調査対象:** 在園児100名(76世帯)の保護者(お子さんが複数通園されている場合は年齢の低いほうのお子さんについて回答を得る)。
- ・ **調査方法:** アンケート方式
アンケート方式を採用。標準調査項目に独自項目を追加したアンケートと案内文、共通評価項目のねらいを返信用封筒に同封し、園職員を通じて保護者へ配布。ポストへの直接投函と、園内に設置した箱で並行して回収を行い、弊社事業所にて集計を行った。
- ・ 利用者総数: 100人
- ・ 利用者家族総数(世帯): 76世帯
- ・ 共通評価項目による調査対象者数: 76人
- ・ 共通評価項目による調査の有効回答者数: 45人
- ・ 利用者家族総数に対する回答者割合(%): 59.2%
- ・ 調査項目: [共通評価項目](#)

評価結果概要版

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

平成28年度

認可保育所

法人名称	社会福祉法人三樹会
事業所名称	江東区亀戸第四保育園
事業所所在地	東京都江東区亀戸4丁目21番13号
事業所電話番号	03-3685-2884

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)	<p>* 子育てをしている保護者を支援して、子どもたちの健やかな自立を見守っていくことで地域の福祉に貢献する。</p> <p>* 社会福祉法人三樹会は多様な福祉サービスが保護者の意向を尊重して総合的に提供されるように創意工夫をし、子どもたちが個人の尊厳を保持しつつ心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利条約に基づいた保育事業を行うことをめざします。</p> <p>* 社会福祉法人三樹会の運営する亀戸第四保育園は、児童福祉法に基づき乳幼児の保育を行います。</p> <p>保育にあつたては、子どもの人権や主体性を尊重し、児童の最善の利益を考慮します。</p> <p>また、すべての子どもの育成支援とすべての保護者の子育て支援を専門的知識・技術および判断を持って行います。</p>

全体の評価講評

特に良いと思う点

- 子どもたちの考えや気持ちを大切に「子どもを真ん中」にした保育の実践をしています環境に恵まれた子どもたちは、遊びを通して友達との関わりや個性ある発想が生まれてきます。日々の保育や行事については常に子どもが主体だという事を一番に考えています。楽器演奏は何を使いたいか、歌の振り付けはどうしたらカッコイイかなどを意見を出し合っていて決めています。発表会の劇も子ども同士の話し合いで決まり、役作りも子どもの希望を尊重した取り組みが伺えます。自分の考えを話す習慣をつけ、自分たちで決めたことに責任を持ち、決めたからには最後まで頑張ってやり遂げる子どもの気持ちを尊重している援助があります。
- 避難訓練は子どもたちの体験としてしっかり根付いて“ごっこ遊び”に発展しています危機管理委員会の下、地震・津波も想定して同じ建物内の高齢者在宅サービスセンターや近隣企業との合同訓練を行っています。訓練後子どもたちは必ず“避難訓練ごっこ”で一緒になって遊び始めています。「地震です、地震です。避難してください！」とアナウンスする子、机に隠れる子、先生役になって先頭になって進む子、園長先生になって「みなさん、よくできました」と挨拶する子。最後に確認する「お・か・し・も・ち」は「お菓子を食べてはいけません」と勘違いしてましたが、子どもたちに避難訓練がしっかり身につけている様子がよくわかります。
- 園庭で米作り・稲刈り・脱穀を経験し苗から植えたさつまいもは秋の芋ほりで収穫を楽しみました。いろいろな食材を知って好きな食べ物やメニューが増えてほしいと作成した献立にはガパオライス、ロコモコ丼、パエリア、ナンなども登場しています。子どもたちはそれぞれに「今日の給食何かな？」と楽しみにしています。食への関心を深める取り組みもあります。園庭で米作り、稲刈り・脱穀も経験しました。さつまいもは苗から植えて秋の芋ほりで収穫です。2階のベランダでは、茄子、ピーマン、トマト、ゴーヤなど夏野菜を育てました。5歳児は最後の夏にみんなでカレー作り、ドキドキしながら包丁を使い、「おいし〜い！」と笑顔で完食しました。

さらなる改善が望まれる点

- ・ **理念・基本方針の再確認が必要と思われ**ます理念・基本方針を確認する為に毎月、理念自己チェックシートを使用して保育環境、保育実践など44項目にわたり出来ているか出来ていないかのチェックを行っています。しかし、職員アンケート結果によると、理念・基本方針を明確化・周知していると考えている方が約半数でした。理念自己チェックシートは、価値観を共有し、子ども達に安心して育つ環境を提供する為に必要なものとして作られています。チェックシートについて、じっくり職員に内容の読み合わせを行い、理解を図る為の取り組みが必要であると考えられます。
- ・ **保育計画の中に「異年齢児保育」を定期的に策定**しましょう行事の中や日頃の保育の中で今まで以上に異年齢の保育を意識して計画に盛り込んでいくことも大切だと考えます。時々、異年齢保育を行っていますが、計画の中で策定することを期待します。クラス人数も多く一度の交流は大変だと思いますが、グループ別に行動がとれるようにすることも一案だと思います。年長さんは1歳児の着替えの手伝いに行くとか、一緒に遊ぶ、お店屋さんごっこで一緒に買い物をする、散歩に出かけるなど色々あります。関わりの中で小さい子は大きい子に憧れ大きい子は優しい思いやりのある気持ちが芽生えてくると思います。
- ・ **行事の見直し**を毎年夏祭りで子ども達がソーラン節を踊る事になっていますが、今年は子どもの希望や話し合いで違う演技にしました。このように、これまで続けてきた内容をそのまま行うのではなく、今の子ども達の状況に合った内容にする事が必要だと思います。また、保護者からは、素晴らしいイベントを用意してくれるとの意見もありますが、運動会、発表会、納涼会、クリスマス会、お茶会、進級を祝う会など多くあります。練習や準備に保育士や子ども達が追われ負担になっている様に思えます。イベントについて、再度検討してより良い形を作り上げる事を期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み

★ 地域の関連機関との連携を図っています

災害時やその恐れがある場合、近隣の建設会社と協力し合い、被害を最小限度に抑えるよう協定を結んでいます。合同の避難訓練を年2回実施しており、平成27年・28年度は消防署立ち合いのもと、建設会社と合同で避難訓練及び煙ハウス体験、起震車による、地震、震度7の体験を行いました。避難場所を建設会社の6階と決め、お昼寝用のコートを担架に見立てて消防署員の誘導で避難場所まで移動する訓練を行っています。また、関係機関との連携は、家庭支援センター、子育て支援課などと連絡を取り合い、幼保小中連携プログラムにも参加しています。

★ 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っています

子ども一人ひとりの発達や生活環境を把握し保護者と協力しあって保育を実施しています。子どもの生きる力を存分に生かせるよう、環境構成を各クラス毎に設定しており、絶えず見直し子どもが動きやすい様に、遊びやすい様に、いつもこれでいいのか？と考えながら援助を行っています。子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め思いやりの心が育つようにも援助をしています。子ども同士のトラブルが起こった時は、子どもの気持ちを尊重した対応を行い、保護者にも適切に伝えており、子どもが集団の中で共に成長できるような保育を実践しています。

★ 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫しています

多くの行事を行っており、納涼会、運動会、発表会は、皆で協力し、やり遂げる事の喜びを味わえるように取り組んでいます。幼児組は、自分たちが考えて実行するお店屋さんごっこやハロウィン集会を実施しています。皆と一緒に考え協力して実施に移す事を楽しんでいます。また、親子遠足、保護者交流会、納涼会、運動会、発表会などの行事を通して保護者同士の交流を深め、保育参観、保育参加を通して子どもの園生活を知り、安心に繋げています。その他、地域住民を行事へ招待したり、ボランティアの受け入れにより、保育士以外との交流をもっています。

利用者調査結果

調査概要

- ・ **調査対象:** 調査時に保育園を利用している保護者を調査対象として実施しました。世帯107世帯、利用者数129名について調査しました。
- ・ **調査方法:** アンケート方式
調査時に保育園を利用している保護者を調査対象とし、各家庭を一単位としてアンケート調査を行いました。アンケートは保護者に対して保育園職員に配布してもらい、調査機関宛郵送で回収しました。
- ・ 利用者総数: 107人

評価結果概要

- 共通評価項目による調査対象者数: 107人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 72人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 67.3%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

評価結果概要版

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

平成30年度

認可保育所

法人名称	社会福祉法人東京児童協会
事業所名称	江東区南砂さくら保育園
事業所所在地	東京都江東区南砂6丁目8番3号
事業所電話番号	03-5690-2190

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)	1、夢を育む、生きる力を育む、思いやりを育む保育の実践 2、挨拶の出来る子どもを育てる 3、家庭と保育園が思いを一つにして子どもの育ちを見守る 4、子どもにとって快適、清潔で安全、安心な環境を整える 5、「食」を通じて子どもたちの成長を促す

全体の評価講評

特に良いと思う点

- 年間テーマを持ち、日常の保育・大きな行事等でつながりのある保育が展開できるよう工夫しており、上の年齢への憧れにもなっている職員のアイデアやチャレンジしたいことを出し合い、年間テーマを「旅・冒険～花を咲かせよう～」と設定している。運動会では花の種を探す冒険に出掛けて種を土に埋め、遠足では花の種に水を与え、大きくなった会では芽が出て花が咲くという一連の年間テーマを通して、子どもの成長を感じられるようにしている。園のプログラムの背景にはアート活動で作成した子どもの作品を活用する等、上の年齢に対する憧れにもなっている。子ども・保護者が共に同じ時間を過ごしなが、日常の積み重ねで習得した姿を園全体で感じることができている。
- 従来の情報提供だけに捉われず、空間や時代に合った方法を取り入れることで、保護者が園の保育内容を知ることができるよう工夫している保護者に園の活動を伝える際には、本物を展示して伝えるようにしている。子どもが育てた稲は稲木を作り、十五夜にはススキ・月見団子・農作物を飾っている。子どもたちが近隣の花屋で購入した花は子どもが活け、おもてなしの気持ちを伝えている。以前から取り組んでいたキッズダンスは、ダンスステップが視聴できる仕組みを整え、興味があれば自宅でも練習できるよう配慮している。掲示・園便り・懇談会という従来の情報提供に留まらず、最も適した方法を取り入れ保育内容を伝えている。
- 職員間のコミュニケーションの取り方や相手の立場を思いやる方法を研修で学び、新たな気付きから立ち振る舞いに変化が生まれている園内研修ではゲームやアイスブレイク等、アクティブに動きながら人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を作っている。経験を重ねることにより発言力や影響力が大きくなっている中、言い方や立ち振る舞い方が他人に対して威圧的になってしまうことがあることに気付き、意見をしやすい雰囲気を作ること、具体的に質問をして応えやすい状態を作ることの大切さを学んでいる。経験ある職員を前に、自分を出し切ることのできない経験の浅い職員がいることを考え、組織の中での立場を考えた役割と責任を再確認する機会にもなっている。

さらなる改善が望まれる点

- 連絡帳アプリの運用の仕方と内容、保育に関する計画の記載すべき事柄をルール化し、情報共有の精度を高める必要性を感じている新たに保育園の全ての事項を管理できるICTの技術を取り入れた連絡帳アプリを導入し、保護者に子どもの様子を提供している。保護者からは運用に当たってシステムに関する説明不足、配信時間、操作性等、様々な意見が出されている。各クラスの週案は事務所内に掲示し、クラスに入る前には予定を確認してから保育を行うことを徹底している。計画内容は他クラスとの合同の活動等は反映していないため、保護者に対して子どもの様子を伝える内容や、計画に記載すべき内容のルール等、誰が見てもわかる内容が必要であると思われる。
- 待機児童解消の使命を受け、保育事業の拡大に向けた人材育成、職員の定着のための取り組み

が急務であると考えている法人が求められている使命である待機児童解消のため、人材育成と職員の定着が重要な課題であると考えている。正職員に対しては法人内研修や外部研修の機会があり、園内研修では個別の課題に対応した資料を配布している。非常勤職員については、組織面の理解や保育サービスに関する知識が職員調査の結果を見ると十分と言える状況ではない。園では、チーム力や職員間のコミュニケーションの充実を課題として上げているが、これと合わせて職員個々のレベルアップと、異なる環境でも力を発揮できる人材の育成が急務と考えている。

- ・挨拶を大切にしている法人として、子どもや職員は積極的に挨拶を交わす等高い意識を持っているが、この機会に再度見直しを考えている法人として挨拶を大切にしているため、子どもや職員は園を訪れた外部の人に対しても積極的に挨拶を交わしている。挨拶の際は立ち止まって相手の目を見て言葉を発し、その後お辞儀をすることを徹底するよう努めている。散歩後に園舎に戻ってきた子どもたちは玄関で挨拶してから中に入る他、廊下ですれ違う来客者にも自ら進んで挨拶する子どもがほとんどである。規律やマナーに対して意識が高い職員が多く見られているが、一部の職員にはばらつきが見られているケースもあるため、法人として挨拶の徹底等の見直しを再度考えている。

事業者が特に力を入れている取り組み

★ アトリエ活動を生活や遊びの中に根付かせ、子どもたちの世界観を広げている

アトリエ活動によって子どもたちはイメージを膨らませ、想像から創造を経て「生きる力・思いやり・夢」を育む力につなげている。アトリエ環境の整備により、子どもたちは画材や製作用具の使い方が身に付いているため主体的に工夫して製作し、想いを実現化できることで達成感が得られている。友達の作品も見ることで子どもが自分を知り、相手のことにも思いを馳せる感覚が養われている。行事では子どもたちのイメージ作りから援助し、必要な装飾や扮装を自分で作り、壮大な宇宙や海の冒険に夢を膨らませる等、世界観を広げる取り組みになっている。

★ 四季折々の自然物に触れ、発見し調べる環境を設け、学びの基礎となるよう工夫している

戸外活動を日常の活動として、自然物に親しむ機会を多く作っている。0歳児はバギーで温かな春を体感してうとうしたり、1歳児は草花を発見して大人に知らせたり、2歳児はどんぐりをたくさん拾って得意気に持ち帰る等、身体全体で四季を感じている。大きくなると「セミが鳴かなくなったから、もう夏も終わり？」との言葉を発したり、「夏は青いトンボ、秋になると赤いトンボが飛んでいる」ことを不思議に感じている。専門家には栽培を教えてもらう他、カブトムシを幼虫から成虫にしていく過程を楽しみ図鑑で調べる等、数多くの学びにつなげている。

★ 食の楽しさも提供し、子どもの生きる力を育て心と身体を作っている

園では、屋上で栽培を行っている。年長児は水やりを当番活動として行い、植物の世話をしながら動植物の命を考える機会にし、収穫物の命を「いただく」思いを育てている。また、ランチルームで様々な職員と関わりながら食を楽しみ、食の幅を広げて身体作りを行っている。給食担当者は掲示物でマナーを知らせる工夫を行う他、テラス等でのランチを企画し、散歩先ではお弁当形式にしたランチも提供している。食を通じて子どもたちの生きる力の源を養えるよう園全体で食育活動を行い、給食担当者と保育士が連携して取り組んでいる。

利用者調査結果

調査概要

- ・ **調査対象:** 在園児100名(84世帯)の保護者(お子さんが複数通園されている場合は年齢の低いほうのお子さんについて回答を得る)。
- ・ **調査方法:** アンケート方式
アンケート方式を採用。標準調査項目に独自項目を追加したアンケートと案内文、共通評価項目のねらいを返信用封筒に同封し、園職員を通じて保護者へ配布。ポストへの直接投函と、園内に設置した箱と並行して回収を行い、弊社事業所にて集計を行った。
- ・ 利用者総数: 100人
- ・ 利用者家族総数(世帯): 84世帯
- ・ 共通評価項目による調査対象者数: 84人
- ・ 共通評価項目による調査の有効回答者数: 53人

評価結果概要

- 利用者家族総数に対する回答者割合(%)：63.1%
- 調査項目：[共通評価項目](#)

利用者アンケート結果(平成29年度～30年度)

評価対象	保育所区分 回答率	塩浜保育園	千田保育園	亀戸第四保育園	南砂さくら保育園
		平均割合(%)	平均割合(%)	平均割合(%)	平均割合(%)
【毎日の保育サービス 17問】					
問1 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	はい	98.6%	94.4%	97.2%	93.3%
	どちらともいえない	1.4%	1.9%	0.7%	5.0%
	いいえ	0.0%	3.7%	2.1%	0.0%
	非該当	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
問2 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっていくか	はい	97.2%	93.5%	97.2%	93.3%
	どちらともいえない	2.1%	6.5%	2.8%	5.0%
	いいえ	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	非該当	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
問3 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	はい	97.2%	89.7%	89.7%	93.3%
	どちらともいえない	2.1%	10.3%	8.3%	3.3%
	いいえ	0.7%	0.0%	1.4%	1.7%
	非該当	0.0%	0.0%	0.7%	1.7%
問4 保育所の生活で身近な自然や社会と十分に関わっているか	はい	93.0%	84.1%	89.0%	81.7%
	どちらともいえない	6.3%	14.0%	10.3%	15.0%
	いいえ	0.7%	1.9%	0.7%	1.7%
	非該当	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
問5 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	はい	80.3%	79.4%	78.6%	81.7%
	どちらともいえない	4.9%	13.1%	6.9%	6.7%
	いいえ	0.0%	1.9%	1.4%	0.0%
	非該当	14.8%	5.6%	13.1%	11.7%
問6 安全対策が十分取られていると思うか	はい	88.7%	73.8%	73.8%	83.3%
	どちらともいえない	10.6%	19.6%	22.1%	13.3%
	いいえ	0.7%	4.7%	3.4%	1.7%
	非該当	0.0%	1.9%	0.7%	1.7%
問7 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	はい	76.1%	83.2%	75.9%	85.0%
	どちらともいえない	20.4%	14.0%	20.0%	13.3%
	いいえ	3.5%	1.9%	4.1%	0.0%
	非該当	0.0%	0.9%	0.0%	1.7%
問8 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	はい	83.1%	81.3%	83.4%	76.7%
	どちらともいえない	12.7%	13.1%	13.1%	18.3%
	いいえ	4.2%	4.7%	3.4%	3.3%
	非該当	0.0%	0.9%	0.0%	1.7%
問9 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	はい	92.3%	92.5%	93.1%	90.0%
	どちらともいえない	7.7%	5.6%	5.5%	8.3%
	いいえ	0.0%	1.9%	1.4%	0.0%
	非該当	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
問10 職員の接遇・態度は適切か	はい	89.4%	88.8%	86.2%	91.7%
	どちらともいえない	9.2%	10.3%	11.0%	5.0%
	いいえ	1.4%	0.9%	2.8%	1.7%
	非該当	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
問11 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	はい	85.9%	86.9%	86.9%	86.7%
	どちらともいえない	11.3%	10.3%	11.7%	6.7%
	いいえ	1.4%	2.8%	1.4%	3.3%
	非該当	1.4%	0.0%	0.0%	3.3%
問12 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	はい	65.5%	70.1%	67.6%	68.3%
	どちらともいえない	24.6%	21.5%	18.6%	20.0%
	いいえ	2.1%	2.8%	3.4%	1.7%
	非該当	7.7%	5.6%	10.3%	10.0%
問13 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	はい	88.0%	88.8%	83.4%	88.3%
	どちらともいえない	11.3%	9.3%	13.1%	6.7%
	いいえ	0.7%	1.9%	2.1%	1.7%
	非該当	0.0%	0.0%	1.4%	3.3%
問14 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	はい	86.6%	86.9%	88.3%	78.3%
	どちらともいえない	7.0%	10.3%	8.3%	11.7%
	いいえ	0.7%	0.0%	0.0%	1.7%
	非該当	5.6%	2.8%	3.4%	8.3%
問15 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	はい	84.5%	79.4%	82.8%	86.7%
	どちらともいえない	11.3%	15.9%	11.7%	8.3%
	いいえ	3.5%	4.7%	3.4%	3.3%
	非該当	0.7%	0.0%	2.1%	1.7%
問16 利用者の不満や要望は対応されているか	はい	72.5%	66.4%	78.6%	75.0%
	どちらともいえない	16.2%	23.4%	9.0%	16.7%
	いいえ	2.1%	2.8%	2.1%	0.0%
	非該当	9.2%	7.5%	10.3%	8.3%
問17 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	はい	38.7%	61.7%	49.7%	78.3%
	どちらともいえない	28.9%	21.5%	27.6%	10.0%
	いいえ	5.6%	6.5%	4.8%	3.3%
	非該当	26.8%	10.3%	17.9%	8.3%

《総合的な感想についてお聞きます》

〔1〕 現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていますか	大変満足	54.2%	38.3%	57.2%	45.0%	
	満足	40.8%	53.3%	34.5%	48.3%	
	どちらともいえない	2.1%	6.5%	3.4%	6.7%	
	不満	1.4%	0.9%	2.1%	0.0%	
	大変不満	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	
	非該当	1.4%	0.0%	2.8%	0.0%	
		「大変満足」及び「満足」の合計	95.1%	91.6%	91.7%	93.3%

※ 平均割合は、2か年における各回答数を全回答者数で除した値

利用者アンケート結果(平成27年度～28年度)

評 価 対 象	保育所区分	塩浜保育園	千田保育園	亀戸第四保育園	南砂さくら保育園
	回答率	平均割合(※)	平均割合(※)	平均割合(※)	平均割合(※)
		74.2%	76.9%	66.0%	81.8%

【毎日の保育サービス 16問】

問1	提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	はい	89.7%	97.5%	96.4%	95.0%
		どちらともいえない	7.1%	2.5%	2.9%	3.6%
		いいえ	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%
		非該当	3.2%	0.0%	0.0%	0.7%
問2	保育所の生活で身近な自然や社会と十分に関わっているか	はい	93.5%	75.8%	88.4%	88.5%
		どちらともいえない	6.5%	17.5%	10.9%	9.4%
		いいえ	0.0%	5.8%	0.0%	2.2%
		非該当	0.0%	0.8%	0.7%	0.0%
問3	保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	はい	92.9%	85.8%	86.2%	86.3%
		どちらともいえない	5.2%	9.2%	2.9%	8.6%
		いいえ	0.0%	0.8%	0.0%	3.6%
		非該当	1.9%	4.2%	10.9%	1.4%
問4	安全対策が十分取られていると思うか	はい	81.9%	70.0%	74.6%	86.3%
		どちらともいえない	16.1%	25.8%	22.5%	11.5%
		いいえ	0.6%	4.2%	2.2%	0.7%
		非該当	1.3%	0.0%	0.7%	1.4%
問5	行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	はい	75.5%	73.3%	84.1%	77.7%
		どちらともいえない	21.3%	24.2%	14.5%	18.7%
		いいえ	3.2%	1.7%	1.4%	2.2%
		非該当	0.0%	0.8%	0.0%	1.4%
問6	子ども保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	はい	94.2%	85.8%	81.9%	89.2%
		どちらともいえない	5.8%	12.5%	15.9%	9.4%
		いいえ	0.0%	1.7%	1.4%	0.7%
		非該当	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%
問7	保護者の考えを聞く姿勢があるか	はい	88.4%	89.2%	89.1%	82.0%
		どちらともいえない	9.7%	9.2%	9.4%	13.7%
		いいえ	1.9%	1.7%	0.0%	2.2%
		非該当	0.0%	0.0%	1.4%	2.2%
問8	施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	はい	91.0%	93.3%	92.1%	92.8%
		どちらともいえない	9.0%	6.7%	6.5%	4.3%
		いいえ	0.0%	0.0%	1.4%	1.4%
		非該当	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
問9	職員の接遇・態度は適切か	はい	90.3%	90.0%	90.6%	84.9%
		どちらともいえない	8.4%	5.8%	8.0%	12.9%
		いいえ	0.6%	4.2%	1.4%	1.4%
		非該当	0.6%	0.0%	0.0%	0.7%
問10	病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	はい	86.5%	89.2%	88.4%	87.8%
		どちらともいえない	11.6%	6.7%	9.4%	9.4%
		いいえ	1.3%	4.2%	0.7%	0.0%
		非該当	0.6%	0.0%	1.4%	2.9%
問11	子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	はい	80.0%	69.2%	74.3%	70.5%
		どちらともいえない	14.8%	20.8%	18.0%	20.1%
		いいえ	1.9%	4.2%	0.7%	0.0%
		非該当	3.2%	5.8%	7.0%	9.4%
問12	子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	はい	85.2%	93.3%	89.9%	81.3%
		どちらともいえない	12.9%	5.0%	8.0%	14.4%
		いいえ	1.3%	1.7%	0.0%	1.4%
		非該当	0.6%	0.0%	2.2%	2.9%
問13	子どもと保護者のプライバシーは守られているか	はい	88.4%	87.5%	87.0%	87.1%
		どちらともいえない	8.4%	7.5%	8.0%	6.5%
		いいえ	1.3%	0.8%	0.7%	1.4%
		非該当	1.9%	4.2%	4.3%	5.0%
問14	保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	はい	87.7%	86.7%	87.7%	79.1%
		どちらともいえない	11.0%	10.0%	8.7%	16.5%
		いいえ	0.6%	1.7%	2.9%	2.2%
		非該当	0.6%	1.7%	0.7%	2.2%
問15	利用者の不安や要望は対応されているか	はい	72.3%	80.0%	73.2%	62.6%
		どちらともいえない	21.3%	14.2%	13.0%	25.2%
		いいえ	1.9%	0.8%	0.0%	2.9%
		非該当	4.5%	5.0%	13.8%	9.4%
問16	外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	はい	58.7%	61.7%	73.1%	67.6%
		どちらともいえない	22.6%	20.0%	12.2%	15.8%
		いいえ	11.0%	6.7%	5.6%	5.8%
		非該当	7.7%	11.7%	9.1%	10.8%

《総合的な感想についてお聞きます》

〔1〕	現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか	大変満足	55.5%	54.2%	59.4%	51.8%
		満足	41.9%	40.8%	37.0%	41.7%
		どちらともいえない	1.3%	2.5%	1.4%	1.4%
		不満	0.6%	0.8%	0.0%	2.9%
		大変不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		非該当	0.6%	1.7%	2.2%	2.2%
		「大変満足」及び「満足」の合計	97.4%	95.0%	96.4%	93.5%

※ 平均割合は、2か年における各回答数を全回答者数で除した値